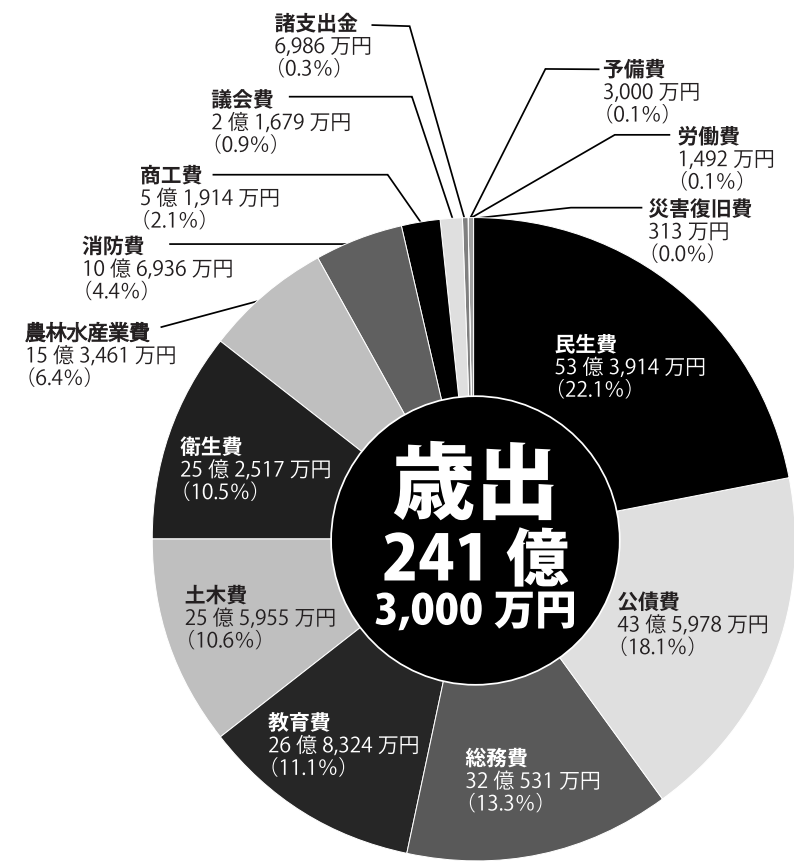


「新しい高島」の取り組みを加速し、本格化し、一本立ちへ「夢と希望と誇り」がもてる魅力的なまちづくりを進めます

平成20年度の予算が3月議会で議決を経て決定しました。平成20年度の一般会計予算は241億3,000万円、昨年度の当初予算と比べて0.2%、金額にして4千万円の減となっています。13特別会計、3事業会計を合わせた予算総額は、446億5千万円で、最大の効果を図ります。



一般会計 歳出

中長期的視野で、財政を健全化

歳出では、定員削減計画に基づき人件費が1.7%の減、扶助費(2.6%)、借入金償還する公債費(0.5%)もそれぞれ減となり、義務的経費は前年度対比で1.4%減と改

予算 平成20年度

■一般会計 241億3,000万円
■特別会計 151億7,920万円
■事業会計 53億3,733万円

予算総額 446億4,653万円

おことわり
※金額は、1万円未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

一般会計 歳入

地方再生対策費などで 地方交付税5億円の増

歳入では、市税収入が市民税の税源移譲や固定資産税の伸び等により1.8%の増となるほか、地方交付税は地方再生対策費の創設や琵琶湖の面積算入により5.3%の増を見込んでいます。また、地方特例交付金は、住宅借

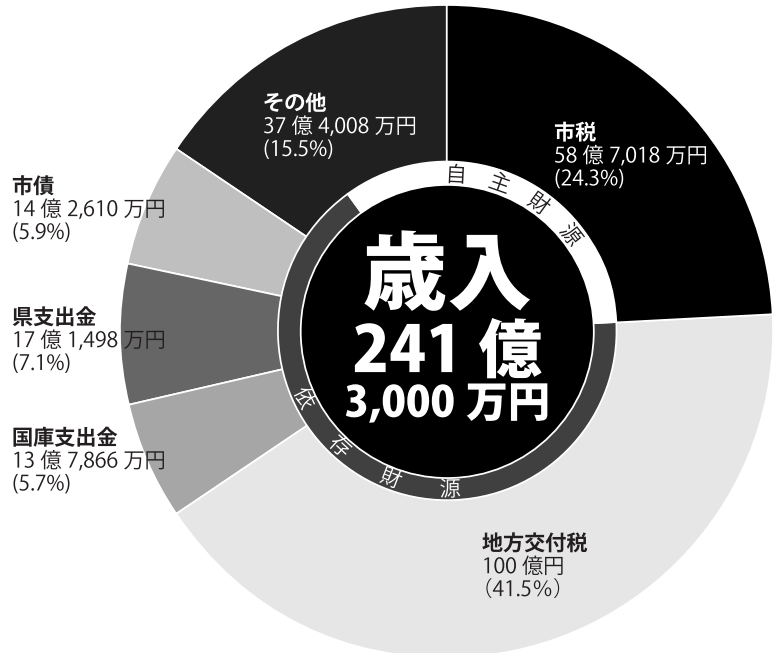
入金等特別税額控除の新設による減収補てんのための特例交付金により、71.7%の増となっています。なお、県支出金は県の財政構造プログラムの影響等により0.4%の減となる一方、国庫支出金は防災行政無線整備事業や不燃物処分場整備事業の実施に伴い3.5%の増となるものの、なお不足を生じるため、財政調整基金をはじめとする貴重な積立財源を8億5千万円取り崩し、収支の均衡を図っています。

財政構造

実質的な自主財源は 全体の3割

歳入は大きく「自主財源」と「依存財源」に分けられます。この自主財源が多いほど、行政活動の自主性と安定性を確保できるとされています。高島市の自主財源は、全体の34.4%で、基金取り崩し分を除いた実

質的な自主財源は30.9%と、依然厳しい状況にあります。また、起債償還のピークは過ぎたものの、新年度の市債償還額が43億6千万円となり、経常経費は依然5割近く占めています。



特別会計 151億7,920万円

- 国民健康保険特別会計 55億2,052万円
- 事業勘定 54億3,262万円
- 直診勘定 8,790万円
- 老人保健医療特別会計 5億6,528万円
- 後期高齢者医療事業特別会計 4億7,076万円
- 住宅新築資金等貸付事業特別会計 174万円
- 簡易水道事業特別会計 8億5,892万円
- 農林業集落排水事業特別会計 6億3,662万円
- 下水道事業特別会計 33億4,504万円
- マキノ白谷温泉事業特別会計 298万円
- 市営バス事業特別会計 2,681万円
- 熱供給事業特別会計 1,465万円
- 土地取得特別会計 4,982万円
- 介護保険事業特別会計 36億704万円
- 訪問看護ステーション事業特別会計 7,903万円

事業会計 53億3,733万円

- 上水道事業会計 8億971万円
- 病院事業会計 41億7,445万円
- 介護老人保健施設事業会計 3億5,317万円